

会 告

去る五月六日（金）に開催された昭和五十八年度春季定例理事会・評議員会において、次の案件が承認可決されました。

一、昭和五十七年度決算報告及び昭和五十八年度予算案

一、役員交替

(1)理事樋口隆康・評議員佐藤圭四郎氏の退任。

(2)理事に野田宣雄・評議員に鎌田元一・紀平英作・小玉新次郎・楢崎彰一氏を選任。

(3)常務理事に小野山節・笠沙雅章氏を選任。

なお旧常務理事谷川道雄・本田実信の両氏は理事に復帰。

編 集 後 記

遅い梅雨明けでした。祇園祭の山鉾巡行も雨の中でした。

やっと梅雨が終ったと思ったら、ひどい暑さがやってきました。東北・北海道はむしろ例年より涼しいそうですが、京都は連日三十三、四度を記録しているだけでなく、夜もいわゆる熱帯夜が続いています。去年までの比較的涼しい夏が恋しく感じられさえします。

私事にわたり恐縮ですが、筆者は鉄筋十階建ての団地の一室に住んでおりますが、このような季節には建物全体が熱せられるせいか、夜になると部屋全体がまるでムン風呂のようになります。筆者は飛騨の山中で生まれ育ちましたので、十余年前初めて京都の夏を経験してその暑さにびっくりすると共に、家は夏場をしのぐことを主眼にして建てるべきだといった兼好法師の言葉の意味が初めてわかったように思いました。そして今この言葉を、うだるような部屋の中で毎日しみじみかみしめています。このようなコンクリートの箱の中で生活するものには、クーラーは決して贅沢品ではなく、

むしろ生活必需品といってもいいのではなからうかなどと思うようにもなりました。さて、大変遅くなりましたが、やっと66巻4号を出すことができました。この間の何号分か毎号のように刊行が遅れまして、御迷惑をおかけしております。どうぞ御許し下さい。原稿の集まりのあまりよくないことが、最大の要因です。御投稿をお待ちしております。

本号は期せずして日本史と東洋史の論稿ばかりとなりましたが、充実した内容になったと自負しております。御吟味下さい。

(光)

一九八三年六月二五日印刷  
一九八三年七月一日発行 定価九〇〇円  
史 林 (第六巻第四号)

発行人 史 学 研 究 会

京都市左京区吉田本町  
京都大学文学部  
振替京都七一一五五番  
理事長 岸 俊 男

印刷所 中村印刷株式会社  
京都市下京区七条御所ノ内中町五〇

会 告

史学研究会大会・総会のお知らせ

左記のごとく、本年度の史学研究会大会および総会を開催いたしますので、多数御出席下さい。

日 時 十一月二日（水）午後一時

場 所 京都大学楽友会館

（市バス近衛通下車東入）

公開講演

鹿之子遺跡出土の漆紙文書

井上満郎氏

東アジア近世の南北問題

萩原淳平氏

史学研究会